

青少年交換送別会・歓送会

青少年交換委員会 前委員長

野村 正勝 (箕面千里中央RC)

昨年の8月下旬に来日した学生6名(2名はすでに帰国)が1年のプログラムを終了し、帰国に当たり彼ら彼女らを母国に送別する会と、今年、外国に派遣される学生6名を送り出す会がシティプラザホテル大阪で6月23日の午後5時半から開催されました。

ホストファミリーやロータリアン、ROTEXのメンバーら総勢60名が参加した華やかな会になりました。まず岡部 泰艦ガバナーが開会の挨拶に立たれ「皆さんおめでとうございます」と来日学生に語り掛け、その努力を労われました。その後、福家 宏ガバナー・ノミニーが乾杯の音頭を取られ、派遣学生に「健康に気を付け、プログラムを全うするよう」激励されました。

先ず磯田幹事が派遣学生を紹介し、彼女達が壇上に並び、順次英語で苦心のプレゼンを出席者の前で披露しました。1年間のオリエンテーションの成果が見事に結実した瞬間でした。委員長から講評があり、その後、彼女らの特技の披露に移りました。大森さんは得意のカメラで芸術の香る写真をパワーポイントで紹介しました。村井さんはピアノのポータブル鍵盤を使い習熟した技で名曲を弾き、トランペットも吹いてくれました。上木さんは



壇上で筆さばきも鮮やかに「夢と希望」と墨書しました。岩谷さんは習熟した技でバントワリングを演じました。山下さんは合気道二段のお母さんと鮮やかな演武を見せ、田口さんはけん玉に興ずる妹さんをバックに華やかな洋舞を見せてくれました。何という才能のオンパレードでしょうか! これで会場が例年以上に盛り上がりました。

引き続きROTEXのメンバーが壇上に登りみんなで激励の合唱をしてくれました。そしていよいよ来日学生のお別れの言葉です。例年ここで会場が涙するのですが、6名の登壇者は皆、陽気で、「最初は苦労したが慣れるにしたがって大阪が大好きになりました」という感想が共通項でした。やや緊張したためか日頃の流暢な日本語は影をひそめていましたが、ホストファミリーの皆さんもほっとした瞬間でした。委員長から5名全員にプログラム終了の認定書を手渡しました。委員会の皆様も一年のご苦勞が報われたひと時でもありました。

最後に泉 博朗次年度ガバナー・ノミニーが「自然体で頑張れ」とエールを送られました。

会の準備をしてくださったROTEXの皆さん、担当の岩佐委員に感謝しながら、ホストファミリーの皆様、担当ロータリアンの皆様の心温まるお世話に委員会一同心よりお礼を申し上げご報告とさせていただきます。

